

プレゼンテーション事業概要一覧

NO	地方公共団体名	事業名	事業内容
1	秋田県能代市	能代市「水素ラボ構想」	本市では、JAXA 能代ロケット実験場の液化水素貯蔵タンクから発生する蒸発水素ガス（ボイルオフガス）を回収して再利用するための施設整備、さらには水素関連のベンチャー企業やユーススペース企業等の産業集積、大学等の研究機関の誘致による人材育成等を図る「水素ラボ構想」を掲げています。事業の推進にあたっては、専門的な設備や維持管理に多額のコストが予想されるほか、設備を利用するユーザーの掘り起こしや、産学官連携による構想全体の推進体制の構築が課題となっています。
2	福島県富岡町	「時の海～東北」プロジェクト応援事業	「時の海～東北」プロジェクトは、現代美術家の宮島達男氏が、東日本大震災の犠牲者への鎮魂と震災の記憶の継承、これからの未来を共につくることを願い、東北に想いを寄せる3,000人と協働して作品を制作するアートプロジェクトであり、本町にその作品を恒久設置するための美術館を、令和11年の開館を目指し準備が進められている。本町では、富岡町災害復興計画（第三次）に掲げる「震災の記憶の継承・文化芸術の振興・富岡駅前周辺のにぎわい創出」に資する取組として、本事業により「時の海～東北」プロジェクト及び町内への美術館建設等を応援する。
3	栃木県足利市	スポーツの力を活用したまちづくり事業	足利市では、スポーツを通じた交流・関係人口の拡大、地域経済活性化、市民の健康増進や青少年の健全育成を図る「スポーツの力を活用したまちづくり」を推進しています。皆様からの寄附金は、既存スポーツ施設の魅力的な再整備によるスポーツツーリズムの推進や、プロスポーツチームと連携した育成拠点整備、青少年の競技力向上支援などに活用いたします。地域課題の解決に共に挑むパートナーとして、皆様のご支援をお待ちしております。
4	千葉県銚子市	若い世代の希望をかなえ、誰もが活躍できるまちづくり子育てサービスの充実事業	銚子市は日本一の水揚げを誇る銚子漁港や、江戸時代から続く醤油産業が盛んな歴史ある街ですが、人口減少が著しく、令和7年国勢調査結果では千葉県内減少数ワースト2位、減少率ワースト3位となっています。特に、若年世代の出生数の減少が深刻です。平成27年では299人であったのが、令和7年は108人と、たった10年で約1/3に減少しています。若年世代、子育て世代の減少に歯止めをかけるため、本市では現在「子育てするなら銚子！」と銘打ち5つの無償化、5つの子育て応援を掲げて、子育てサービスの充実、子育て世代の移住定住促進に取り組んでいます。
5	神奈川県横浜須賀甲市	Yokosuka e-Sports Project	eスポーツを通じて若い世代の活躍支援と地域コミュニティの活性化、新たな文化の定着を目指すプロジェクトです。全国の高校生を対象とした「YOKOSUKA e-Sports CUP」の開催をはじめ、市内高校のeスポーツ部活動支援、市民向け体験会・企業・教育機関等と連携した「Yokosuka e-Sports Partners」など、eスポーツを入口に、若者が挑戦・交流できる機会を創出するとともに、産学民官の連携を広げ、横浜須賀甲ならではの新たな地域の魅力とにぎわいの創出を目指しています。
6	福井県池田町	池田町地域新電力「まちエネいけだ」推進事業 ～地域循環型エネルギーによる持続可能なまちづくり～	池田町では、小水力発電や太陽光発電など地域資源を活用した再生可能エネルギーを基盤に、地域新電力「まちエネいけだ」による電気の地産地消を進めています。本事業では、町内で生み出した電力を地域で利用することで、電気料金の域外流出を抑え、エネルギーの自給率向上と地域経済の循環を図ります。また、電力事業の収益を脱炭素の取組や地域課題の解決に再投資し、災害に強く持続可能なまちづくりを推進します。住民・事業者・行政が連携し、2050年に向けたエネルギー自立型の地域づくりを目指す事業です。
7	山梨県小菅村	小菅の湯第2源泉井戸掘削工事	村外から多くの観光客の方が訪れ観光業の中心となっている小菅の湯ですが、開業から30年以上が経過していることから、施設や設備の老朽化が深刻になっています。なかでも源泉を汲み上げる井戸については、全部で3つあるうちの2つは現在使用できない状況になってしまっており、今後も温泉の営業が続けられるが不安な状態です。設備の破損により稼働できない状態となってしまった第2源泉井戸を新たに掘削することで小菅の湯を守るだけでなく、小菅村の観光業全体を守っていくための事業です。
8	静岡県湖西市	観光振興事業	湖西市の夏を代表する「おいでん祭」は、長年市民に愛されている、市民のための祭りです。中でも、「手筒火花」は、降り注ぐ火の粉の中を筒を抱えながら乱舞する姿が東海道の奇祭とも言われ、祭りを彩る特徴的な催しの一つとなっています。しかし、近年は猛暑への対策や物価高騰による開催経費の増加などにより、これまで当たり前のように続いてきた祭りを、同じ形で次の世代へつないでいくことが難しくなっています。市民が大切に受け継いできた祭りの灯を絶やすことなく、次の世代へつないでいくため、企業の皆さまの力をお貸しください。
9	愛知県日進市	全庁一帯で進める地域課題解決型官民共創プロジェクト ～企業版ふるさと納税をCSRからESG投資へ～	企業版ふるさと納税を、単なるCSR活動ではなく、企業価値の向上と地域課題の解決を両立するESG投資と捉え、日進市では全庁一帯で寄附メニューを開発しました。関心を持っていただいた企業には、事業を所管する部課長が直接訪問し、課題の背景、寄附の使途や効果を説明します。寄附後も企業の専門知識やノウハウを生かした官民共創へ発展させ、魅力ある投資先、信頼できる事業パートナーとして選ばれる自治体を目指します。また、メニュー開発を通じて既存事業を見直し、事業効果の向上と行政改革にもつなげます。
10	三重県名張市	メイハンフィールド（名張市民陸上競技場）公認継続事業	メイハンフィールド（名張市民陸上競技場）は、「第4種公認陸上競技場」として本市及びその周辺地域の公認競技会の主催場の役割を担っています。ここでは、多くの選手による挑戦が続けられています。5年に1度行われる公認の更新では、認定団体が示す水準をクリアしなければならず整備のために多額の費用が生じます。そして今、資金面の問題から更新が危ぶまれている苦境に立たされています。アスリートの挑戦を応援し、日本全国、世界へ羽ばたく挑戦が続けられるよう皆様のお力をお貸しください。
11	京都府久御山町	みまきこまんなか応援村整備事業	久御山町では、「こどもまんなか みんなの声が響く くみやま」を基本理念に、行政・家庭・地域・事業所がこどもをまんなかに集まり、わいわいと会話できるまちづくりをめざしています。農村地帯である御牧地区をモデル地域として、家族以外の大人が子育てを手伝ったり、こどもを温かく見守ることができる新たな拠点「みまきこまんなか応援村」の整備を進めています。この拠点の運営は、行政だけで行うのではなく、地域住民と協力しながら子育てでのサポートをしています。この御牧地区の取り組みをモデルとし、他の地区にも「こどもまんなか」を広げ、全国一番の子育て環境のまちづくりを進めていきます。
12	奈良県三宅町	みやけウェルネスタウン事業	住民の健康寿命の延伸と医療費抑制を目的とし、「病気になる前に気づき、行動を変える」予防・早期介入型の健康施策を推進しています。取り組みの1つとして、町内において死因上位を占める心疾患に着目し、家庭で睡眠中に測定できるホーム心臓ドックを活用しています。早期発見・早期治療につなげる新しい健康習慣の定着を目指すとともに、単なる検査機会の提供にとどまらず、『自分の心臓の状態を知り、行動を変える』住民の意識改革（ケアマインド醸成）を重視した取り組みです。
13	高知県	こうち未来創造グローバル人材育成事業	地域の課題解決に向けて、多様な他者との対話や協働を重視しながら主体的に行動できるグローバル人材の育成を目的とし、本県の課題解決に向けて産学官で協働するつながりの更なる強化のため、企業様からの寄附金をもとに、県内高校生への「探究型海外留学」への支援を実施するもの
14	福岡県遠賀町	総合運動公園リニューアルプロジェクト	JR遠賀川駅の南側に位置する「遠賀総合運動公園」は、多目的グラウンドやコミュニティセンター、体育センターを中心とした複合型の運動施設で、まちのスポーツ・レクリエーションの拠点となっています。この度、当町では人芝のサッカーコート整備をはじめとした公園全体のリニューアルを計画しています。このリニューアルにより、快適なスポーツ環境やコミュニティの場を生み出すことで、町民だけでなく、さまざまな地域から人を呼び込み、まち全体のにぎわいづくりを目指します。
15	宮崎県木城町	環境と人にやさしい農業の促進事業	令和3年度より、有機農業の実証や魅力発信のための取り組みを開始し、生産者支援や新規就農者の確保と町民意識の醸成を目的として「有機農業推進室」を新設（令和6年度）し、年次的に活動の幅を広げています。生産から消費までを地域が一体となって検討する「木城オーガニックタウン推進協議会」を設立し、オーガニックを軸としたまちづくりの輪を広げるため、関係団体が連携・協働して行う農業体験や食育活動の推進、学校給食での有機農産物の使用率向上のため、支援・情報発信等を行っており、消費者から見た木城町の有機農業に対する地域ブランド力の向上、有機農業に魅力を感じチャレンジしたい新規就農者に「選ばれる・選びたい」町を目指し、世代を超えて有機農業に触れる取り組みを進めています。